

柴若光昭（東京大学教育学部）

筆者の担当部分では、安全教育及び保健指導に関し、初年度の探索的研究を実施した。以下に、安全教育班と保健指導班に分けて、簡単に報告する。紙幅の制限のため、具体的な内容や結果についてほとんど触れられないのが残念である。

I 安全教育に関する研究

思春期保健の中で、ともすれば安全の問題が忘れられがちであるが、一般的に死亡率が低い思春期において、不慮の事故、特に交通事故による死亡の総死亡に対する比率は高く、安全の問題、特に交通安全の問題は、重要な課題のひとつであると考えられる。安全の問題といっても巾広いので、今回は交通安全に絞り、その中でも、最近激増している青少年の二輪車事故を中心に、その背景となる青少年の risk taking な mentality や、免許制度などの社会的背景などを含め、思春期保健という広い視野から、思春期の交通安全の問題をとらえ直してみることを試みた。今年度は初年度なので、まず、思春期の交通安全に関する課題や問題点の所在を探るため、予備的な検討を行った。具体的には、(1)内外の青少年期を中心とした交通安全の文献を収集し、review し、(2)小中学生から大学生までに、交通安全意識・交通安全行動や自転車の安全などに関する数種の予備アンケート調査を実施し、(3)二輪車を実際に走行させ、それをVTRに記録し、安全の面から検討した。更に、交通安全の問題に対する教育的アプローチについて、予備的検討を行った。本報告においては、そのうち、(1)の文献的検討について若干報告する。

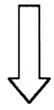
交通安全関係の文献は、各領域の雑誌・単行本の中に散見され、それらを網羅することは容易でない。今回は、交通安全意識・交通安全行動に関する文献を、国際交通安全学会のデータベースや「青少年ドライバー」巻末の文献リストなどを手がかりに、「交通安全教育」、「科学警察研究所報告 交通編」、「IATSS Review」などの雑

誌を中心に調べ、重要と思われる文献は要約した。全体的な研究の現状を review するためには、現時点までに収集した文献では不十分であるが、気づいた点を若干述べれば、以下のようである。交通安全意識・行動に関する調査研究は数多いが、単なる単純集計、クロス集計にとどまらず、「交通安全意識項目」を外的基準として数量化理論Ⅱ類による判別分析を行う（定井喜明・大富博久「ミニバイク運転者の交通安全意識・行動と交通安全対策」IATSS review vol.9, №3, 1983）など、より進んだ分析による研究もみられるようになってきている。また、直接安全行動を観察・測定する方法も安全行動のより正確な測定方法として重視されるようになってきている。「若さ」と事故率の高さとの関連についても、より深い考察が進められるようになってきている。なお、この文献研究については、SBM研究会の諸君の協力を得たことを感謝したい。

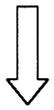
II 保健指導に関する研究

思春期保健の諸問題を解決するために、学校現場で養護教諭の保健指導の果たす役割は大きい。しかしながら、このことに関する掘り下げた検討が十分とは言えない現状から、保健指導に関する全国アンケート調査と並行して、健康教育ミニ懇話会を組織して、質的検討をも進めている。

健康教育ミニ懇話会は教育現場の教職員（特に養護教諭）が保健指導に関して本音で意見を交換する場として、1983年8月に発足した。会の中心テーマは「心の健康に問題をもつ子どもの実状とその対応」であり、発足後約半年間は「登校拒否」について話し合われた。月1回開かれる会の具体的活動は各人の問題提起・話題提供とディスカッションが中心となっているが、BSやKJ法等も積極的に取り入れている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



筆者の担当部分では、安全教育及び保健指導に関し、初年度の探索的研究を実施した。以下に、安全教育班と保健指導班に分けて、簡単に報告する。紙幅の制限のため、具体的な内容や結果についてほとんど触れられないのが残念である。